

I N F O R M A T I O N

■ 本学関係者による展覧会情報

- ・イチハラヒロコ／油画
『プレイルーム。』 11月9日(日)まで開催中 京都国立近代美術館
- ・入佐美南子／油画
『二科大阪展』 11月5日(水)～11月16日(日) 大阪市立美術館
『二科京都展』 11月27日(木)～12月7日(日) 京都市美術館
- ・中野庸二／油画
『Ge展』 11月1日(土)まで開催中 大阪府立現代美術センター
- ・長谷川一郎／油画
『Visual Sensation vol.3』 11月3日(月)～11月22日(土) Gallery Den/58
『長谷川一郎 個展 －F／E－』 11月24日(月)～12月6日(土) Gallery Den
- ・堀井聰／油画
『絵画セレクション』 11月5日(水)～11月10日(月) 松坂屋 豊田店 サンシャインホール
『絵画セレクション』 12月4日(木)～12月9日(火) 松坂屋 岡崎店 8F大催事場
- ・京都嵯峨芸術大学芸術学部／油画分野
『油画研究室展「思考する視線－des regards qui pensent－Vol.4」』2009年1月27日(火)～2月1日(日) 同時代ギャラリー
※油画分野の教員関係者8名(イチハラヒロコ、入佐美南子、宇野和幸、中野庸二、長谷川一郎、堀井聰、松尾恵、山本直木)が出品する研究室展。
- ・土手朋英／日本画
『第35回創画展』 11月2日(日)～11月16日(日) 京都市美術館
『第35回創画展』 11月18日(火)～11月24日(月) 愛知県美術館ギャラリー
- ・内海福博／日本画
『第35回創画展』 11月2日(日)～11月16日(日) 京都市美術館
『第35回創画展』 11月18日(火)～11月24日(月) 愛知県美術館ギャラリー
- ・林潤一／日本画
『第13回 21世紀の目展』 11月12日(水)～11月18日(火) 高島屋東京店
『第13回 21世紀の目展』 12月3日(水)～12月9日(火) 高島屋大阪店
『第13回 21世紀の目展』 12月17日(水)～12月23日(火) 高島屋京都店
『京都日本画新展』 2009年1月24日(土)～1月28日(水) 美術館「えき」KYOTO
- ・西嶋豊彦／日本画
『個展』 12月3日(水)～12月16日(火) ナカジマアート／東京
- ・前田恭子／日本画
『京都日本画新展』 2009年1月24日(土)～1月28日(水) 美術館「えき」KYOTO
『阿部友子・織田涼子・前田恭子 日本画3人展』 2009年1月27日(火)～2月1日(日) ギャラリー恵風
- ・古水絹代／染織
『日展』 10月31日(金)～12月7日(日) 国立新美術館／東京
『日展 京都展』 12月13日(土)～2009年1月16日(金) 京都市美術館
- ・兼先恵子／染織
『日展』 10月31日(金)～12月7日(日) 国立新美術館／東京
『日展 京都展』 12月13日(土)～2009年1月16日(金) 京都市美術館
- ・吉引ありさ／染織
『個展』 12月8日(月)～12月20日(土) 大阪成蹊大学スペースB
- ・大住由季／染織
『個展』 11月29日(土)～12月13日(土) ギャラリーギャラリー-EX
- ・西山裕希子／染織
『糊と蠟それぞれの表現』 12月2日(火)～12月21日(日) 染・清流館
- ・日野田 崇／陶芸
『art ASIA Miami 2008』 12月4日(木)～12月7日(日) Wynwood District Miami／アメリカ
- ・田上真也／陶芸
『田上真也展』 11月7日(金)～11月13日(木) ギャラリーこうけつ／岐阜県
『田上真也展』 12月5日(金)～12月25日(木) INAX ガレリアセラミカ／東京
- ・京都嵯峨芸術大学芸術学部／観光デザイン学科2回生
『京都・嵐山花灯路2008』 12月12日(火)～12月21日(日) 嵐山周辺、大覚寺ほか
※観光デザイン学科の2回生23名が企画参加するイベント。
- ・神谷三郎／短大デザイン(イラストレーション)
『神谷三郎 個展』 11月14日(金)～11月30日(日) 太陽事務／京都
- ・京都嵯峨芸術大学短期大学部／イラストレーション領域
『FURO - E(ふる絵) in ARASHIYAMA vol.1』 11月24日(月)～12月7日(日) 嵯峨野湯 cafe style resort in kyoto
※京都嵯峨芸術大学短期大学部イラストレーション領域の学生と教員を合わせた約60名以上による作品展。銭湯の背景画ぬり絵、脱衣場のエレメントなどをモチーフにしたイラストレーション、動画作品を展示。

■ 京都嵯峨芸術大学公式サイトのご案内

京都嵯峨芸術大学公式サイトにて
最新の大学情報をご覧くださいませ。
<PC> <http://www.kyoto-saga.ac.jp>

こちらのQRコードを使って、
携帯サイトにアクセスする
ことも出来ます。



■ 大学行事予定

連続公開講座
「京の美意識」スケジュール

京都の独特の知恵や美意識について、毎回、
各分野の第一線で活躍されておられる講師
をお招きして、ご講演いただいています(参
加無料)。

○第37回11月15日(土)
「映画に於ける美術の位置づけ」
井川徳道<美術監督>

○第38回12月13日(土)
「旬、おいしく、やさしく。」
平井達雄<京つけもの 西利 代表取締役社長>

○第39回1月10日(土)
「京・漆と硝子の物語」
中西宏明<漆造形家>

○第40回2月21日(土)
「花街の四季」
松尾久枝<お茶屋・祇園「多麻」女将>

○第41回3月21日(土)
「京都の不思議」
黒田正子<編集者・ライター兼エッセイスト>

※いずれの回も14:20～有響館G401教室に
て。お申込み・お問合せは文化事業部まで。
TEL.075-864-7898

大学行事予定(11月～2月)

11月1日(土)～3日(月祝) 推薦入試
(短期大学部、芸術学部)

11月19日(水) 学長選挙
11月20日(木) 理事会
11月21日(金) 月例法要
11月22日(土)、23日(日) 嵐芸祭(学園祭)
11月30日(日) 大学院前期入試

12月14日(日) 芸術学部特別入試、
短期大学部自己推薦入試
12月15日(月) 月例法要
12月23日(火)～1月8日(木) 冬期休業

1月9日(金) 授業再開
1月13日(火) 後期通常授業終了
1月14日(水)～16日(金) 補講期間
1月15日(火) 月例法要
1月19日(月)～24日(土) 後期定期試験
1月25日(日)～27日(火) 前期一般入試
(短期大学部、芸術学部)
1月27日(火) 学園創立記念日

2月4日(水)～ 8日(日) 制作展
2月12日(木)～21日(土) 後期集中講義期間

京都嵯峨芸術大学広報

第 26 号

2008年11月1日発行

編集●京都嵯峨芸術大学 総務部 広報室
発行●学校法人大覚寺学園京都嵯峨芸術大学

〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町 1 番地
TEL.075-864-7859
FAX.075-881-7133
info@kyoto-saga.ac.jp

京都嵯峨 芸術大学 広報

KYOTO SAGA

UNIVERSITY OF ARTS

PUBLIC RELATIONS

VOL.26

NOVEMBER
2008

Contribution

「太秦ヌーヴェル・ヴァーグ・
プロジェクト」進行中

京都嵯峨芸術大学芸術学部
メディアデザイン学科教授 三宅章介



News

理事会報告 2009年度(平成21年度) 予算編成基本方針／学園創
立40周年記念事業報告／教員人事／教育後援会活
動報告／2008年度9月卒業・修了報告／海外研修報
告／東儀秀樹客員教授特別授業報告ほか



Topics

教員・在学生の活躍

嵐芸祭開催直前告知!／藤木庸介准教授が書
籍を発行／彫刻分野4回生による有響館作品
展を開催／『嵯峨芸術』第2号を発行

博物館・ギャラリー報告



Information

連続公開講座「京の美意識」
本学教職員展覧会情報
大学行事日程



「太秦ヌーヴェル・ヴァーグ・プロジェクト」進行中

京都嵯峨芸術大学芸術学部 メディアデザイン学科教授 三宅 章介



この夏、「太秦ヌーヴェル・ヴァーグ・プロジェクト」の映画撮影が本学中庭、有響館、嵐山東公園、太秦中学校、大映通り商店街ほか、でおこなわれました。このプロジェクトは学生有志による映画制作の試みで、地元の映画関係者で組織されたNPO「京都の文化を映像で記録する会」のご協力によりすすめられています。

京都は日本映画発祥の地ともいわれ、リュミエール兄弟によるシネマトグラフ発明から2年後の1897年には、四条河原町の発電所（現河原町変電所）の庭にスクリーンを張って、映画試写がおこなわれたことが記録に残っています。1910年には二条城撮影所が開設され、日本映画の父・牧野省三が尾上松之助主演で「忠臣蔵」を撮影しています。以後、伝統文化と歴史的景観に恵まれたこの地は、時代劇のメッカとして、国際的にも独自の地歩を築いてきました。1923年、関東大震災で東京の撮影所が壊滅した後は、現代劇を含め、日本映画の拠点が京都に集まり、洛西

地域だけでも、13の撮影所がつくれ、まさに日本のハリウッドを形成していました。本学がある嵯峨野にも片岡千恵蔵プロと第一映画撮影所があったそうです。現在、太秦には日本最大規模の東映京都撮影所と松竹京都映画撮影所があり、今も日本映画の伝統が根づいています。

本学ではメディアデザイン学科をはじめ、さまざまな領域で課題あるいは自主制作として、映像やアニメーションの制作が活発にすすめられています。卒業・進級制作展においても、年々、映像作品の比率は増えています。しかし、映画の街=太秦という絶好の環境にありながら、なぜか映画づくりという地域に蓄積された文化資源と直接ふれあう機会には恵まれませんでした。

そんななか、観光デザイン学科における地域との結びつきが発端となり、学生たちの先端的な映像感覚と地元で脈打つ映画づくりの技と心を結びつけることはできないかという思いから、2005年太秦ヌーヴェル・ヴァーグ・プ



ロジェクト（第1期）を立ち上げました。太秦の地から次世代の映像コンテンツを発信しようということです。

現在進行中のプロジェクトは第2期にあたり、前回に引き続き、京都市の「大学地域連携モデル創造支援事業」に認定され、助成金を受けることができました。加えて、本学芸術文化研究所の共同研究費も交付されています。

昨年、6月末に第1期作品「分別」の上映と説明会を開き、第2期の企画案を募集したところ、メディアデザイン学科を中心に短期大学部を含め約20名のスタッフが集まりました。以来、何度もミーティングを重ね、企画を絞り込み、藤川客員教授（脚本家）のアドバイスを受けながら、本年1月に企画書とプロットを確定しました。原案の羽瀬絵里奈（メディアデザイン学科2回生）が脚本・監督を務めることになり、助監督、撮影、照明、音声、音楽、美術、衣裳、メイク、制作などの分担を決めました。

春休みにシナリオハンティングをおこない、藤川客員教授、NPOの家喜監督らの指導により、検討稿、準備稿、改訂稿と何度も手直しがおこなわれ、クランクイン直前の7月によりやく決定稿に至りました。撮影上の制約などから大幅に短縮しましたが、それでも33シーン、上映時間約45分が見込まれています。

「モノケ」（妖怪）と人間が日常的に違和感なく混じり合って生活しているという設定のなかで、やる気を失ったモノケと、ダンスに興じるハリキリ屋の母親に辟易としている少女が出会い、ダンスを通じて……、というお話です。（見てからのお楽しみです）

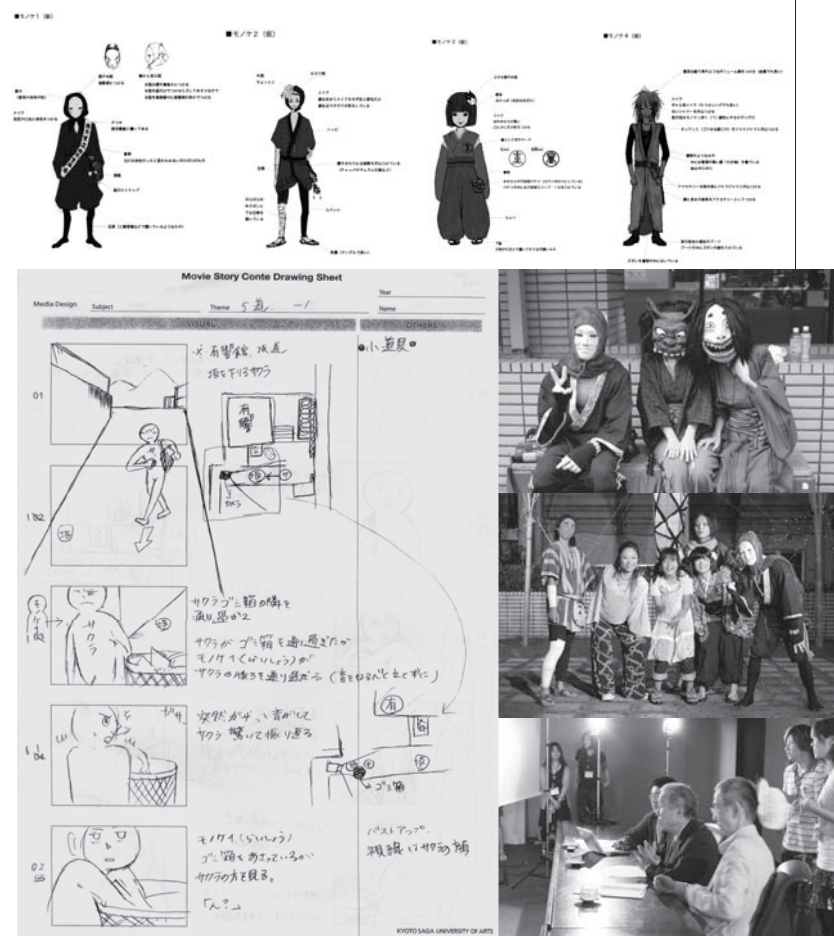
脚本にもまして難航したのがキャストです。主人公の中学生の女の子は羽瀬監督の従兄弟、相手役もスタッフの妹が引き受けてくれ

ました。そして、ダンス・プロデューサーの山純（yama jun）さんが母親役とダンスの指導を引き受けてくださったことで、俄然、展望がひられました。モノケの評論家に本学の三好学長、TVのコメンテーターに森本教授、大森教授、通行人に事務局総務課の大前さんという豪華キャストです。モノケの衣裳、メイクも見所です。クライマックスのダンスシーンは中庭でモノケ・人間混成の30名の群舞が繰り広げられ、タケゾウの大提灯が雰囲気盛り上げました。

参加メンバーたちにとってはアルバイトや旅行も返上しての本当に暑い暑い夏休みでした。日常の実習とは違ったものづくりの醍醐味を存分に味わってくれたと思います。

現在、パソコンへの取り込み作業が進行中で、10月中にはラッシュを仕上げ、編集について、NPOのアドバイスを受ける予定です。完成作品は卒業制作展にあわせて上映会をおこなうとともに、京都国際学生映画祭をはじめ、各地の映画祭への出品を考えています。

乞うご期待です。



理事会報告			
2009年度(平成21年度)予算編成基本方針		学校法人 大覚寺学園 理事長 黒髪寛延	
大学全入時代を迎え、多くの私立大学で教育課程の多様化、複合化が進んでいる。いわゆる規制緩和によって改組等の手続が簡易化され、学部・学科再編の動きが活発化しているのであろう。もっとも、そのようにして増設、改組された学部・学科への志願者数は、必ずしも期待ほど伸びていない。18歳人口の減少が、その絶対的要因であることは言をまたない。本学園としては、こうした状況下でいたずらに改組・改編に走るのではなく、「教育憲章」に謳った〈建学の精神〉、〈教育目的〉を基盤としつつ、時代と社会の要請に着実に応える芸術教育の確立に努めなければならない。 私立の大学・短期大学にとって、学生の量的かつ質的確保は、いわば生命線である。しかしながら、全国の大学の約45%が収容定員を完全には充足できなくなっている。短期大学にいたっては、実にその60%が定員を確保できていないのが実情である。日本私立学校振興・共済事業団によれば、経営難に陥った学校法人が、合併あるいは廃止に関する相談を持ち込む件数が増加し、その範囲は、定員未充足の法人の約20%に及んでいるという。本学園にあっても、短期大学部における定員不充足がつづいており、このままだと経営上大きな問題となることも覚悟しなければならない。対策として考えられるのは、広報をはじめとする学生募集活動の強化は当然として、	教育課程の改善、老朽化した諸施設の改修、募金活動の展開、経常的経費の節減などであろうが、その成果は必ずしも樂觀できない。18歳人口の減少とは対照的に、60歳世代に代表されるシニア人口は、いまや200万人を超えるとされ、この世代への対応も、今後の大学運営に少なからぬ影響を与えらると思われる。大学・短期大学における教育対象を18歳世代に限定することなく、成人・社会人の再教育についてより本格的なプログラムを持つことが、高等教育機関にとって大きな課題となりつつある。本学園でも、昨年度から、社会人を対象とした研修生制度を立ち上げたところであるが、今後なお一層、この方向の努力を重ねるべきであろう。 こうして、大学・短期大学部を取り巻く状況が厳しさを増すのと同時に、高等教育機関の社会的使命、あるいは社会的責任についての要望が、これまで以上に強くなりつつある。すなわち、教育の質の保証、経営破綻などに備えた危機管理システムの整備、各種法令の遵守など、すべての教育機関がその存立をかけて取り組むべき課題とされている。本学園でも、法人、教授会、事務局が一体となって、われわれが目指すべき地域密着型高等教育機関としての社会的責任を、しっかりと見極めていかなければならない。 すでに昨年度の「予算編成基本方針」	で示した通り、創立40周年を3年後に控えた今、本学園が取り組むべき最大の課題は「建学の理念のさらなる徹底と具体化」であり、短期大学部の定員縮小とカリキュラム改編、芸術学部における新学科の設置、さらには多様化する学生の質的変化に即応できる新たな芸術教育、一般教育の確立にある。また、老朽化しつつある学舎についても、その耐震補強工事が社会的責任とされていることもあって、早急にこれと取り組む必要がある。加えて、学生諸君にとって魅力あるキャンパスを実現するためにも、諸施設の美化・改修が、避けることのできない課題となる。これらは、すでに一昨年度以来、学園創立40周年事業の一環として、準備を進めてきたところである。これら諸事業の資金確保のためにも、学生定員の確保によって学園の財政状況の安定をはからねばならない。また、教職員の危機意識を高め、財政改善への全学的協力を取り付けていく必要がある。 かねてから、本学園では、その社会的認知度を高めるため、「京都嵯峨野文化サロン」や「京の美意識」、「あらし山びこ」など、多くの文化事業と取り組んできた。その成果は大きく、予算的資源は限られるとはいえ、今後ともこの分野での活動の継続的展開がのぞまれる。 平成21年度の予算編成にあたっては、創立40周年記念事業をはじめ、上に述べた諸事業との取り組みを中心に考えていきたい。そのためには、学生募集活動の強化を第一に、休学、中途退学者の抑制に努め、学生納付金収入の安定をはかるとともに、種々の公的支援プログラムによる補助金の獲得、寄付募集活動の展開など、資金面での増収を図る必要があろう。その上で、支出面でも経常経費を中心に可能な限りの緊縮予算を目指すべく、全学の理解と協力を求めていく必要がある。各部、各課、各研究室にあっても、入念な事業計画の作成をもとに、もっとも効率的な予算編成を目指してもらいたい。 以上の基本方針を踏まえ、平成21年度の予算編成における中心的課題を次のように定めることとする。	
【平成21年度予算編成基本方針による重点的課題】 1. 学園創立40周年記念事業の取り組み ・旧学舎の耐震診断、補強工事のための予算編成 ・学園史の編纂および出版に関する経費計上 ・記念寄付金(教育環境施設充実のため)の募集計画の策定 2. 学生募集活動の強化、効果的広報活動の展開 3. 新たな教育内容、教育体制など、教育改革を目指した研究の推進 4. 地域連携、社会貢献、文化諸事業のさらなる展開 5. 教職員の能力・意欲を評価する制度、給与制度の改善に向けた検討 6. 科学研究費、教育GP (Good Plactice) など、外部資金の獲得を目指す積極的取り組み 7. 省エネ対策など、経費削減を目指した具体的対策の推進			
NOVEMBER 2008		4	

大学報告			
学園創立40周年記念事業報告ー耐震診断についてー		2008年度9月卒業・修了報告	
前号で設置をご報告したキャンパス整備計画委員会は、6月に6社に向けて「耐震診断・耐震補強計画に関する工法等の提案要請」を行ない、8月に5社から提案を受けました。委員会では、それぞれの診断方法と費用見積、耐震補強の必要性の有無に関する考え方、耐震補強を必要とする場合の工法に関する見解、耐震補強設		計・監理に要する費用見積、耐震補強工事に要する概算工事費等について、詳細に比較検討を行い、9月26日(金)に開催された理事会に委員会見解を報告しました。理事会では、この報告を受け、慎重に審議した結果、清水建設株式会社に耐震診断を依頼することに決定しました。	
教員人事		夏期休暇期間を利用して、海外美術研修が実施されました。これは、海外での「体験」を通して、学生の専門領域の視野・見識の拡大を目指すもので、今年は2つの研修が行われました。ひとつは、欧州の歴史都市の代表であるイタリアのローマ・フィレンツェ・ベネチア、スペインのバルセロナを対象に、歴史都市環境の保全による環境とその中心となる文化芸術の魅力を学ぶというもので、21名の学生が参加しました。もうひとつは、チェコ・オーストリア・ハンガリーにある美術館・博物館を巡るもので、24名の学生が参加しました。この研修では、ヨーロッパの中世以降の絵画や建築様式を数多く見学すると同時に、当時の政治・経済を関連させて学ぶことができました。	
短期大学部美術学科 大畑真也 講師		東儀秀樹客員教授特別授業報告	
			
私が現在まで絵を生業に生きて来られたのは、学生時代にお世話になった恩師のおかげです。今度は自分が講師という立場で、微力ながら学生にその恩を引き継ぐ順番が来たのではないかという気がしています。学生達には、卒業後の長い人生を生き抜くための糧を身に付けて欲しいと願っています。イラスト描きとして私が今まで経験してきた事を学生に伝えながら、自身も共に成長していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。		また、9月に入って6日(土)には岡山で、7日(日)には福岡で地方懇談会が開催され、中国・四国・九州地方の保護者の方々と学校関係者とで、懇談の時間が持たれました。	
教育後援会活動報告			
教育後援会では、7月6日(日)に有響館において平成20年度総会が開催されました。19年度事業報告・決算と20年度事業計画・予算が承認され、新役員の選出も行われました。その後引続き、桑田学生部長より学生の進路支援についての講演が行われました。場所を変えて学科分野別に食事を摂りながら担当教員との懇談会、希望者には成績関係や学生生活、就職関係についての個別相談会も実施されました。		9月18日(木)、本学AVホールにて今年4月より本学客員教授に就任されました雅楽奏者の東儀秀樹先生によるはじめての特別授業が行われました。「雅楽のこころ、音楽の力」と題して行われた講義には、夏休み期間中にも関わらず70名以上の学生が集まり、3時間に及ぶ授業を熱心に受講しました。途中には東儀先生の生演奏も入るバラエティーに富んだプログラムで、授業終了後には貴重な文化財でもある楽器を学生が手ほどきを受けながら自由に演奏したりと、充実した講義内容となりました。東儀先生の授業は後期にも開催予定ですので、今回参加した学生はもちろん、聞き逃した学生も積極的に受講してもらいたいと思います。	
		第33回の「あらし山びこ」は、10月11日(土)、造形作家の中辻悦子さんをお迎えして、講演会を開催しました。ご自身が作家活動に入るまでの経緯や、作品が出来上がるまでのプロセスなど、個々の作品をスライド映像で紹介しながらのお話は、とてもわかりやすく、たくさんの作品を見ることもでき、大変充実した講演会となりました。お人柄がにじみ出る語り口で、最初に作った絵本を自ら読んでくださるなど、参加者一同、感激ひとしおでした。	
		5	

2008年度オープンキャンパス報告



2008年のオープンキャンパスは、6月22日(日)、8月1・2・3日(金・土・日)、9月23日(火・祝)で開催しましたが、いずれの回も前年を微増(1割強)ながら上回る来場者がありました。今年の顕著な特徴としては、AO入試の受験をにらんでの来場が多かった事、JR京都駅と本学間の送迎バスの利用が多かった事、保護者の来場が前年に続き増加している事などが挙げられます。例年、オープンキャンパスの来場者は受験にまで至る率が高く、また増加を続ける保護者との接触の機会として、オープンキャンパスの重要度は増す一方です。



中国政府派遣研究員帰国報告

昨年度の10月より中国政府派遣研究員の周乃林氏が来日されていましたが、このたび1年間の研究期間を終了し、9月20日(土)～9月24日(水)の期間に本学学生ホールにて『周乃林 作品展』を開催されました。日本画制作および日本画と中国画の比較をテーマに研

究されていた周氏による、桂川を描いた写生画から篆刻まで16点の作品が展示されました。展示会場で伺った周氏からのメッセージを報告いたします。

「日本画の勉強に関しては箱崎先生や仲先生に色々とお教えていただき、本当に感謝しています。また、生活面での面倒なことに関しては教務課の小澤課長に大変お世話になりました。嵯峨芸大の学生の皆さんにも、とても親切にいただき、感謝しています。中国画は墨の濃淡で描く水墨画の絵画表現ですが、日本画は色彩がとても綺麗です。ですから日本では日本画の色彩をしっかり勉強したいと思い、1年間学ばせていただきました。これからは日本画のよい部分と中国画のよい部分を融合させて描く自分の新しい表現を目指そうと思っています。帰国してからは日本で学んだ様々なことを学生に教えて、できれば中国で「日本で勉強をしたい」という学生を育て、日本を紹介したいと思っています。皆さん本当にありがとうございました。」(周乃林)



京都嵯峨野文化サロン開催報告

7回目を数える京都嵯峨野文化サロンが「色で読み解く『源氏物語』の世界」と題し、大覚寺にて10月11日(土)に開催されました。染織史家・吉岡幸雄氏の講演と、金剛永謹氏(能楽 金剛流 二十六世宗家)による公演が行われ、約500名の参加者が集いました。詳細は次号の広報誌27号にて報告します。

T O P I C S

教員・在学生の活躍

嵐芸祭開催直前告知！

本学恒例の嵐芸祭(学園祭)が、11月22日(土)・23日(日)に開催されます。本年度のテーマは【「裸」むけ!心の皮】普段何気なくかぶっている仮面(皮)をはずし、日常において関わりの少ない短期大学部と芸術学部の間を深めると共に、大学全体の交流を深めることを目的の思いがあるようです。今回の嵐芸祭は例年になくイベントが多く、嵐芸祭の2日間は学園全体が最高に盛り上がるものと思います。主なイベントは「スチャダラパー」の音楽ライブ、「第1回京都嵐山ファンタスティック映画祭」、2日間連続の河崎実監督の映画上映、「バカ映画の巨匠・河崎実の世界」河崎監督自らの講演、シンポジウムの実施、「P-1グランプリin嵯峨芸(キャラクター作品を集め、グランプリを決めて実際に商品化する企画)」、吉本芸人による「お笑いライブ」、同窓会主催の「卒業生による講演会と卒業生と在学生の交流会」、在学生の作品展「嵐芸展」、宝さがし、クラブのイベント、模擬店、フリーマーケット等、多くのイベントで盛りあがるものと思います。

<嵐芸祭実行委員長からのコメント>

「学祭の楽しさを伝えたい」「もっと学祭を盛り上げたい」「在学生の参加を増やしたい」そんな思いから決意した、嵐芸祭実行委員長という役目。どうしたらいいか分からないことが多々あり、問題にぶつかりながらの日々だけど、どこか楽しい。それはきっとみんながひとつの目標に向かって頑張ろう! という気持ちがあるからだと思う。この私たちの熱い思いが在学生に伝わっていることを祈って

います。今年は1回生のメンバーが多く、また、新たな発見、新しい、いつもと違う嵯峨芸をお見せできると思います。

嵐芸祭実行委員長 尾鳥 亜実
(京都嵯峨芸術大学短期大学部美術学科2年生)



絵・短期大学部デザイン分野
1年生 濱地香須梨さん

藤木庸介准教授が書籍を発行

観光デザイン学科准教授の藤木庸介先生が編著を担当した『名作住宅で学ぶ建築製図』が発行されました。篠原一男「白の家」など、建築デザインとしても魅力的な日本の近代名作住宅を題材にした製図演習のための学習テキストで、建築家の生い立ちや作品写真などの参考資料により、製図と実際の建築の関係性を捉えることが



編著者：藤木庸介
発行所：株式会社学芸出版社
版 型：A4変判
頁 数：96P
発 行：2008年8月10日
価 格：2940円(本体2800円)
ISBN : 978-4-7615-2438-8

彫刻分野4回生による有響館作品展を開催

9月27日(土)～10月6日(月)の期間、芸術学部造形学科の彫刻分野4回生による作品展が、本学・萩原キャンパス有響館を舞台に開催されました。素材の

特性を活かした、石彫5点、木彫3点、ミクストメディアの技法で制作した6点を合わせた計14点の作品群が、有響館の2Fから4F及び野外スペースにて展示されました。



『嵯峨芸術』第2号を発行

『嵯峨芸術』の第2号を9月1日(月)に発行いたしました。本学の実技系教員の研究・制作活動を中心に紹介する本誌では、本学客員教授の藤川桂介先生、ジョー・プライス先生、東儀秀樹先生をはじめ、大島成己先生や宇野和幸先生らの記事を掲載。計48ページの構成で、普段は感じることのできない各先生方のより深い側面に触れることができる内容となっています。



博物館・ギャラリー報告

附属博物館展示報告

6月17日(火)～8月3日(日)の期間、『京都嵯峨芸術大学の先人達 林司馬～写す～ 新収蔵の写生帖を中心に』を開催しました。現在の日本画古画研究工房における礎を築かれた、林司馬先生の初公開となる平等院鳳凰堂扉絵下絵やご遺族よりご寄贈いただいた写生帖等を含む約60点を展示し、在学生のみならず卒業生を含む一般の方々にも多く来館いただきました。8月1日(金)、2日(土)には本学

日本画古画研究工房箱崎教授によるギャラリートークも行なわれました。また9月23日(火)～10月12日(日)には『藤川桂介の仕事-ウルトラマンから宇宙皇子まで-』を開催。様々な脚本を書かれてきた藤川先生の貴重な資料を、本学メディアデザイン学科の学生が調査・研究するプロジェクトスタートを記念して、特撮、アニメーション作品の制作資料や映像、藤川先生のインタビューを学生達が中心となって展示・公開。熱心に展示をみる学生の姿も多数見られました。9月27日(土)の「開催記念特別公開授業 藤川桂介の講義-キャラクターの転換点-」では、学生に混じって一般の方も多数聴講され、2時間を越える熱のこもった講義が行なわれました。

●『京都嵯峨芸術大学の先人達 林司馬～写す～新収蔵の写生帖を中心に』
会期:6/17～8/3
会場:附属博物館

●『藤川桂介の仕事-ウルトラマンから宇宙皇子まで-』
会期:9/23～10/12
会場:附属博物館

●『京都嵯峨芸術大学短期大学部専攻科日本画展』
会期:6/10～6/15
会場:附属ギャラリー

●『Thinking print vol.3 Drawing!表現としてのドローイングの可能性』
会期:6/25～7/7
会場:附属ギャラリー

●『工芸専攻科展』
会期:7/8～7/13
会場:附属ギャラリー

●『日本画制作室3・4年生日本画制作展』
会期:7/15～7/20
会場:附属ギャラリー

●『視覚の記憶-針穴写真と透視図法-展』
会期:9/26～10/5
会場:附属ギャラリー

●『卒業生作品展 アニメーター・逢坂浩司の仕事-原画-』
会期:10/7～10/17
会場:附属ギャラリー

●『日本・インド版画交流展』
会期:10/21～10/26
会場:附属ギャラリー